

北上川水系(北上川上流)流域治水協議会のこれまでの経緯と今後の予定

◆第1回流域治水協議会(令和2年9月16日開催)

1. 協議会の目的

本協議会は、令和元年東日本台風をはじめとした近年の激甚な水害や、気候変動による今後の水害の激甚化・頻発化に備え、北上川水系北上川上流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とする。

◆第2回流域治水協議会(令和3年2月10日開催)

1. 北上川水系(北上川上流)流域治水プロジェクトとりまとめ(案)
2. 北上川水系(北上川上流)流域治水宣言(案)

◆北上川水系流域治水プロジェクト(令和3年3月30日策定・公表)

◆第3回流域治水協議会(令和3年11月11日開催)

1. グリーンインフラの取組を追加した流域治水プロジェクトの公表に向けて

◆第4回流域治水協議会(令和4年3月25日開催)

1. 流域治水プロジェクトの更新(案)について

◆流域治水×グリーンインフラ(令和4年3月改訂・公表)

◆第5回流域治水協議会 幹事会(令和4年6月30日開催)

1. 流域治水プロジェクトの推進メニューの検討・更新について

◆北上川上流ほか 流域治水 意見交換会(令和4年12月15日開催)

1. 各市町実務担当者による意見交換会(勉強会)を開催

◆第6回流域治水協議会 幹事会(令和5年1月25日開催)

1. 流域治水プロジェクトのフォローアップ方法について(提案)

◆第5回流域治水協議会(令和5年2月10日開催)

1. 流域治水プロジェクトのフォローアップ方法について(確認・取組開始)

◆第7回流域治水協議会 幹事会(令和5年6月下旬予定)

1. 流域治水プロジェクトのフォローアップについて(取組メニューの更新)

北上川上流ほか 流域治水 意見交換会（令和4年12月15日）

開催趣旨

北上川上流の流域治水において、事前にいただいた各市町からの意見や質問、要望を踏まえ、4つのテーマ「特定都市河川の指定」「田んぼダム」「流域抑制の取組」「防災まちづくり」重点取組について流域自治体8市7町、関係機関4団体でどのように取り組んでいくかについて意見交換を実施。

開催状況

- 開催日：令和4年12月15日（木）WEB開催
- 開催時間：13：30～15：30
- 開催場所：岩手河川国道事務所 災害対策室

主な意見

- ・特定都市河川の指定について、指定できる河川が拡充されており、要件に合致するところは指定に向けて検討していきたい（検討中である）。
- ・田んぼダムに取り組む場合は、支援や補償対策がなければ難しい。現状でも治水性は持っている。
- ・田んぼダムで収穫された米を下流の地域で積極的に購入している事例もある。農業関係者でデメリットを負担するのではなく、メリットを受ける地域を含め、全体でデメリットを共有し負担するような関係作りが必要。
- ・川と町が近いところにあるので、町の安全性を高めるために、立地適正化計画、防災指針の策定に積極的に取り組んでいただきたい。
- ・流域治水は、流域一体で取り組むことで大きな効果が得られる。地域全体の協力体制を築くことが重要。

出席者

盛岡市ほか流域自治体（計15市町）
JR東日本盛岡支社、北上土地改良調査管理事務所、盛岡森林管理署、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 岩手県農林水産部、岩手県県土整備部、盛岡地方気象台 東北地方整備局、北上川ダム統合管理事務所、岩手河川国道事務所、北上川上流流域治水協議会構成員以外の自治体（3市6町）71名

開催状況



岩手河川国道事務所 調査第一課
前田課長 挨拶



北上川上流 流域治水 意見交換
開催状況

開催趣旨

令和元年東日本台風をはじめとした近年の激甚な水害や、気候変動による今後の水害の激甚化・頻発化に備え、北上川水系北上川上流域において、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するための協議・情報共有を行うことを目的とする。

開催状況

- 開催日：令和5年1月25日（水）WEB開催
- 開催時間：15：00～16：30
- 開催場所：岩手河川国道事務所 2階大会議室

主な意見

- ・グループ分けをするのは大変結構だが、グループ分けした毎に意見交換というのは、岩手河川国道事務所が中心になってやるのか。
- ・グループでの議論というのを今後広げていただければありがたい。
- ・田んぼダムに関しては土地改良区も入らないと進まないだろう。参集範囲も少し変えていかないといけないと考える。施策の内容によっては、参集範囲が変わってくるのかという気もする。
- ・施策のどれかについて、グルーピングして、議論を活性化してほしい。それぞれの自治体が意向のあるものについて、グルーピングして議論していただく方が、効率的な話ができるんじゃないか。

出席者

盛岡市ほか流域自治体（計15市町）
JR東日本盛岡支社、北上土地改良調査管理事務所、
盛岡森林管理署、
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター
盛岡水源林整備事務所
岩手県農林水産部、岩手県県土整備部、盛岡地方気象台
北上川ダム統合管理事務所、岩手河川国道事務所、

開催状況



岩手河川国道事務所
進行及び資料説明



北上川水系（北上川上流）流域治水協議会
第6回幹事会 開催状況

第4回 北上川水系(北上川上流)流域治水協議会

- 令和4年3月25日、北上川上流域(岩手県内)の関係機関による、第4回北上川水系(北上川上流)流域治水協議会を開催。
- 令和4年3月末時点の流域治水プロジェクトの更新(案)について、全体イメージを確認。
- 北上川上流域の地形特性を踏まえた治水対策について事務局から情報提供を行い意見を交換。

日時: 令和4年3月25日(金) 13:30~15:00

場所: 岩手河川国道事務所 2F大会議室(Web併用)

出席者: 盛岡市、花巻市、北上市、遠野市、一関市、八幡平市、奥州市、滝沢市、雫石町、岩手町、紫波町、矢巾町、西和賀町、金ヶ崎町、平泉町、東日本旅客鉄道株式会社、北上土地改良調査管理事務所、盛岡森林管理署、森林整備センター、盛岡地方气象台、岩手県、北上川ダム統合管理事務所、岩手河川国道事務所 約30名

○岩手河川国道事務所長 ひらい やすゆき 平井 康幸

- ・流域治水は、防災・減災対策関係者のほか、あらゆる流域の関係者が協同して取り組むもので、今後も関係の皆様のご協力をいただき進めていきたい。
- ・本日第4回の協議会は、昨年3月に公表した北上川水系の流域治水プロジェクトに対して、新たにグリーンインフラの取り組みや、水害リスクマップを追記するなどした更新案について3月末の公表に向けて審議いただくとともに、北上川上流の地形特性を踏まえた治水対策について意見交換していきたい。

●協議会開催状況



※新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、WEB方式併用、マスク着用、消毒、換気を徹底して開催。

○北上土地改良調査管理事務所 くりた とおる 栗田 徹

- ・田んぼダムの排水口の整備等への補助については、令和4年度から新たに支援がはじまる。田んぼダムの導入を促進するため、調整活動や畦畔補強等を定額で支援するので、これを活用していただきたい。
- ・田んぼダムは30cmくらい貯めればある程度効果出るということ、30cm程度であれば被害が出ないというデータもある。水稻の生育ステージに応じて、危険な時期は田んぼダムで貯める水位を下げるなど工夫をしながら取り組んでいただければよいのではないかと考えている。
- ・田んぼダムを実施する人に、流域全体でそういった人への感謝や、地域全体で取り組もうという意識の醸成が重要になってくると思う。

第4回 北上川水系(北上川上流)流域治水協議会

●協議会で出された意見等



たかはし しょうぞう
矢巾町長 高橋 昌造

- ・矢巾町では田んぼダムをとおして減災対策を講じていく。
- ・理解と意識の醸成を図るため、田んぼダム実証事業の現地説明会や、防災イベント、町の防災ラジオ「やはラジ」等を通してPRを実施しており、町内31地区の約半数の地区から前向きな回答を頂いている。
- ・一方で、田んぼダムの普及拡大に対して、水田施策の見直しに伴う作付け見通しの再検討や、大豆等への転作田での実施には適さないということ、多面的機能支払交付金の活用に見込める地区に限られる、といった課題も見えてきている。



うえだ どういち
花巻市長 上田 東一

- ・田んぼダムは非常に素晴らしい面白い取り組みと思う。
- ・一方でいろんな課題もあるということが見えてきている。市内の農業関係者からは、排水口の整備について今までやったことがないとの声、また、花巻市では、水田面積の約4割が既に転作されており、対象となりうる水田面積が少なくなっている。
- ・田んぼダムをやる場合、農業者に協力してもらわなければならないが、営農的にメリットが無く、損失が営農者に出た場合、それをどうやってカバーするかということについて、しっかりした対策が必要ではないかと思う。



くまがい いずみ
紫波町長 熊谷 泉

- ・紫波町では、平成14年、平成19年の洪水で日詰地区で浸水被害があったが、そこに隣接する運動公園に洪水を貯留させ日詰地区に洪水を流入させないようにする計画を立てている。
- ・田んぼダムは、紫波町にも有効と考える。検証していかなければならないこともあり、(本協議会での議論等を)参考にさせていただきたい。



ささき こうじ
岩手町長 佐々木 光司

- ・大雨洪水の時にはいろんな方法を考えて減災に結びつくようなアイデアをみんなでチャレンジしていかなければならない。
- ・いろんな制度設計を行い、被害を受ける方にはきちっとした手当てが出る仕組みを作る必要があると感じている。



わたなべ やすし
奥州市都市整備部長 渡辺 恭志

- ・なかなか奥州市では田んぼダムの推進に踏み込めていないのが実情。
- ・田んぼダムを今後進めるには、将来実施する地域において基盤整備にあわせて、あるいは基盤整備事業の中で実施するのが一番確実に効果が得られるのではないかと考えている。
- ・農業者のメリットについては、スマート田んぼダムなどで水田の水管理の自動化や、一定面積を一括でできるということができれば、農業者のメリットにもつながると考えている。
- ・費用負担の問題については、補助の残りの部分の財政処置も講じないと、田んぼダムを進めていくのは難しいと感じている。



しぎはら よしたか
一関市建設部長 嶋原 吉隆

- ・一関市は水田面積が広く、効果も大きいと理解できる。
- ・北上川上流域として田んぼダムに取り組むというのであれば、流域治水協議会の中に作業部会を設置し、情報共有を図りながら取り組みれば事業の効果は高くなるのではないかと思う。
- ・幹事会の構成員に各市町の農林部局の関係者が含まれていない。田んぼダムを進めていくのであれば、農林部局の関係者の参画が必要と考える。
- ・農業の減反、担い手不足などが課題になっている中で、農業政策と連携しつつ、必要な手当ての取り組みを願う。